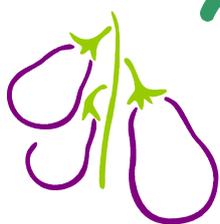


私の父は農家です。

父が作った「とうもろこし」や

「じゃがいも」が大好きです。

(参加者 小学6年 菱山 優佳里さん)



私の気持ち

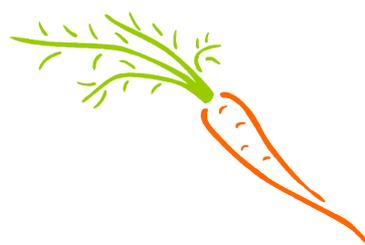
ぼくの声

八王子市子どもあこやか宣言普及啓発事業

平成22年度

はちおうじ

子どもミーティングの記録



八王子市こども家庭部

協力 健康福祉部 生活衛生課(保健所)

産業振興部 農林課

学校教育部 学事課



も く じ

子どもは未来の担い手(八王子市長 黒須 隆一)-----	2
「八王子市子どもすこやか宣言」と「子どもの権利条約」-----	3
八王子市が目指す子どもの参加のかたち-----	4
参加者募集-----	4
オリエンテーション-----	6
体験教室-----	8
学習会・ワークショップのすすめ方-----	10
子どもミーティング-----	13
子どもたちの声(参加者感想文)-----	16
メディアで紹介されました-----	23
「“振り返りの時間”から」(学生サポーター感想文)-----	24
「農林課から」-----	29
はちおうじ子どもミーティング資料	
1 名簿 -----	31
2 子どもたちの提案-----	32
3 学生サポーター(研修)-----	34
4 子どもの活動と参加-----	35
子どもミーティングに協力していただいた方々-----	37



子どもは未来の担い手

本年も「はちおうじ子どもミーティング」を8月22日に開催いたしました。

2回目となる今年のテーマは「農業と食」。公募で選ばれた小学5年生から中学3年生までの25名が参加し、7月22日のオリエンテーションを皮切りに、1ヶ月にわたりテーマについて学びました。体験教室では、地元農家の協力で、ブルーベリーやとうもろこしの収穫を体験し、また、事前学習会では農業や学校給食に関する市の取り組みや課題についてレクチャーを受けるなど、入念な準備を経て、満を持してミーティングを迎えました。

当日は、多くの傍聴者が見守る中、出席した22名の子どもたちが自由な発想で、「地元野菜をもっと学校給食に使って欲しい」、「農業体験イベントを開催して」といった意見や、中には「八王子農業いかく振興計画」として、政治家顔負けの具体的なプランを提案するなど、学びの成果を存分に発揮してくれました。

「農業と食」は、私たちが生きていく上で最も身近なテーマです。子ども達の発言からは、日頃食べている食材が農家の皆さんの大変な苦勞により作られていることや、八王子の農業のポテンシャルを実感出来たことがひしひしと伝わって来ました。今回、子どもミーティングを開催するにあたり、1ヶ月間にわたり子ども達を支えてくれた24名の学生サポーター、そして収穫体験を受け入れていただいた農家の皆さんに、心から感謝を申し上げる次第です。本市の将来を担う子どもたちが、自分のまちの将来はどうあるべきか、真剣に学び考えることはとても重要なことです。今後も、こうした取り組みを継続的に展開し、“地域の未来の担い手”を育てて参ります。

八王子市長 黒須 隆一



八王子市子どもすこやか宣言と子どもの権利条約

「未来を担う子どもたちがみんな幸せに、そして責任ある大人になってもらいたい。」「自然がたくさんある八王子でいきいきと生活し、自分の可能性を伸ばして欲しい。」「まわりの人と信頼しあえる関係を大切に、健康で個性豊かに成長して欲しい。」というのは、私たちの共通の願いです。

この願いを明文化し世界中の子どもが持っている権利を守る規範として、国連では「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」が平成元年（1989年）に採択され、日本も平成6年（1994年）にこれを批准しました。ここでいう権利とは「人権」のことであり、人間としての尊厳をもつ社会の一員として扱われるべきであるという意味です。

八王子市では「子どもの権利条約」の考え方を取り入れながら、平成13年2月に「八王子市子どもすこやか宣言」を行いました。

そして平成20年、子ども議会や子ども議員の活動をとおして、こうした考え方を広く市民のみなさんに知っていただく取組みを行ってきました。今回実施した子どもミーティングもそのひとつです。

八王子市子どもすこやか宣言



- 1 わたしたちは、人にはみんな違いがあり、みんなよいところをもっていることを認めお互いに相手を尊重します。
- 1 わたしたちは、がまんすることの大切さを理解するとともに、好きなことに夢をもち元気にくらしします。
- 1 わたしたちは、しっかりと自分を表現し、自分の意見や行動に責任をもちます。
- 1 わたしたちは、子どもたち1人ひとりが大切にされ、安心して生活できる家庭を望みます。
- 1 わたしたちは、家庭や学校そして地域で学習する楽しさがわかり、自分の可能性を伸ばすことのできる環境を求めます。

平成13年2月4日 八王子市

八王子市が目指す子どもの参加のかたち

子どもの権利条約にある「子どもの発言」「子どもの社会参加」の具体的な取り組みとして行われたのが平成20年に本市が実施した子ども議会であり、より身近な参加スタイルになった平成21年度からの子どもミーティングです。

このような取り組みを単なるイベントとして終わらせるのではなく、きちんと「子ども参加」の権利を保障する継続的な事業としていくためには、「子どもが社会参加をする」という事業に対してのおとなの理解が不可欠です。子どもに参加や発言の機会をつくっても、その後の活動がおとなによって意図的にすすめられたものであっては意味がありません。子どもの活動はおとな側の仕掛けによって、“それらしく”出来てしまうものであり、発言や結論を誘導することが可能だからです。形式的なだけの子どもたちの参加では私たちの考える目的は果せません。



本市はこうした課題に取り組むため、おとなと子どもの間に入り、“子どもが子どもらしく”じっくり活動に取り組むために、彼らに寄り添う身近なお兄さん・お姉さんの役割としての「学生サポーター」の育成、テーマに関わる市の所管課が協力する事前学習会、地域の中でテーマに関わる仕事をしている方や市民活動団体の方などの協力による体験教室など、子どもたちが見て、聞いて、感じて、友達と一緒にじっくり考え、自分の言葉で発言する、というスタイルをつくりました。

この報告集を通じて、こうした子どもたちがたどった子どもミーティング本番までのプロセスを順に追っていただき、八王子市が取り組んでいる「子ども参加」の形をご覧いただければと思います。

参加者募集

【テーマについて】

今年度は、昨年参加した子どもたちの話や学生サポーターの意見を参考に「農業と食」をテーマにしました。「地産地消」「食料自給率」「給食」「食育」など、子どもたちの関心をそそるにはぴったりのテーマでした。

【応募について】

参加者は昨年同様公募しました。応募する子どもには農業や食についての意見や質問を書いて送ってもらいましたが、どれも大変個性的なものでした。

はちおうじ子どもミーティング

小学6年 今山 和々子さん

『私が市長さんと話したいことはたくさんあり

ます。その中でも一番話したい・伝えたいことは『地元』のパワーについてです。××小学校では今年から給食の時に栄養士さんから、お手紙がよく来ます。内容は、「今日の はこうやってつくりました!」とか「今日は を入れました。苦手な人もチャレンジしてね!」とか、いろいろなことがあります。

でも、私が見て一番うれしいのは「今日は八王子産の小松菜です。」というようなものです。この野菜は地元でつくったんだ!と思うと安心して食べられるし、なんだかとてもおいしい感じがします。(実際おいしいけど...)

確かに海外から輸入すれば安くすんで助かるかも知れませんが...でも手紙に書いてあったように、地産地消はとっても大切だと思います。だから時には、輸入に頼ってもいいけれど、なるべく地元のものを使ってくれるとありがたいです!!何事も身近なところからはじめるのが一番です!!と・に・か・く!!私は市長さんと地元の食べ物についてほかにもいろいろ話したいです。

ぜひ子どもミーティングに参加したいと思います!!』

単に質問を考えるのではなく、自分の思いや考えをしっかりとって参加してることが作文から読み取れました。こうして市内在学・在住の小学5年~中学3年、25名の応募者が参加することになり、今年の子どもミーティングがスタートしました。



子どもが八王子市のまちのこことについて質問や意見をいう「はちおうじ子どもミーティング」を、今年も8月22日(日)に開催します。今回のテーマは「農業と食」。

今年の夏休み、あなたは市長とどんなことを話してみたいですか?

小学生の皆さんへ
近所で野菜を作っているところを見たりありますか?ブルーベリーだってコンゴだって、野菜だって作っているんですよ。八王子はびっくらりするくらいいろいろな夏野菜を作っています。じゃあ、せっかく作ったものをインシヤセルに食べられちゃうことがあるって知っていますか?また子どもがのまちでもまだ知らないことがいっぱいあるんですよ。

中学生の皆さんへ
「地産地消」って何を言っているのか?「農業」は聞いたことありませんか。私たちの暮らしも考える時、食べるとは何かすることのできないテーマです。そして農業は、世界的にも日本人の生活と切り離せないものです。中学生の目から見た農業をぜひ聞かせてください。

どんなことをするの?

- オリエンテーション(7月中旬) 全1回
子どもミーティングってどんなこと?とか、初めての顔合わせやテーマについてのお話を中心です。
- 学習会(7月下旬、8月上旬) 全2回
1) 題目:実際に八王子で作られている農産物を収穫してみたり、農家の方からお話を聞いてもらう体験教室を行います。
- 2) 題目:「農業」や「食」のここと実際に取組んでいる市役所の人の方がわかりやすく教えてくれます。

■はちおうじ子どもミーティング(8月22日) 会場:八王子市立加住小中学校(小中一貫校)
学習会や友達と話してきたことをもとに、「八王子の農業や食」について直接市長と話します。

■応募方法:住所・氏名・電話番号・学校名・学年、「農業」「食」について、あなたが市に話したいこと、聞いてみたいことを書いてハガキまたはファクスで下のあて先まで送ってください。
〒192-8501 子どものしあわせ館「子どもミーティング」係

- 募集対象:小学校5年生~中学校3年生
- 募集人数:約25名(応募が多かったときは抽選になります。)
- 募集期間:平成22年6月22日(火)【応募】
- 申込先:平成22年7月上旬 応募者全員に直接連絡します。
- 問い合わせ:子ども家庭課子ども福祉課「子どもミーティング」係
電話 042-420-7391 FAX 042-427-7776 e:062800@city.hachioji.tokyo.jp

オリエンテーション（7月22日）

今年で2回目となる子どもミーティングは、この日から子どもたちと一緒に活動が始まりました。

オリエンテーションは八王子労政会館で行われ、朝早くから緊張ぎみな子どもたちが続々と集まって来ました。でも初対面ということもあり、緊張しているのは学生サポーターも同じです。

サポーターには去年から引き続き参加している経験者もいる一方で、今年から参加した人は、もしかしたら子どもたちより緊張していたかもしれません。

そんな緊張をほぐすために行われたのは「アイスブレイク」です。これは参加者同士がこれから始まる活動に、スムーズに入れるようにする準備体操のようなもので、この日は簡単なレクリエーションやクイズなどを取り入れていきました。クイズは「八王子で一日に生まれる赤ちゃんの人数は？」など八王子に関する数字を当てていくもので、各グループ景品(あめ玉でした)をめぐって、とても盛り上がりました。

お昼を食べてからは、午前中とは違うグループを作った後に、今回の子どもミーティングで取り上げる八王子の農業について簡単な説明が行われました。お昼を食べた後ということもあり、眠たそうな人もちらほらと…。午後に作ったグループでは、ワークショップを行いました。ワークショップは参加者全員の意見を聞くにはもってこいで、出したテーマについて、思ったことをどんどん付せんに書いてもらい、最後にはみんなの意見をまとめて、一人ひとりの考えを共有します。今回のテーマは「夏休みって...!？」でした。初めてのワークショップに戸惑う子どもたちもいましたが、書き始めるとたくさんの意見が出てきて、まとめるのが大変になるグループも！最後に意見の書かれた付せんに模造紙にまとめていくのですが、女の子が積極的に意見をまとめるグループや、男の子が積極的に意見をまとめるグループなど様々でした。学生サポーターは事前に研修をしたのですが、模造紙の出来栄は子どもたちの方が上手なので驚きました。

残念ながら今回のオリエンテーションだけでは馴染めなかった人もいましたが、これからの活動に向けてサポーターと仲良くなれた子どもがいたことにはとても嬉しく思います。

（学生サポーター 河瀬 昌昭）



緊張のオリエンテーション



初めてのワークショップ体験

はちおうじ子どもミーティング

オリエンテーションは、いきなり体験教室から始まった昨年の活動に比べ、子どもたちに大変良い雰囲気作りができました。特に効果的だったのは「新しい友達作り」につながったということです。

当日参加した子どもたちは次のような感想を寄せてくれました。

.....
小学6年 下岡 真奈さん 「いろいろな子と考えることが出来た子どもミーティング」

私はこの前の子どもミーティングでわかったことがあります。それは、いろいろな子たちと一緒に学びながら楽しく過ごす、その1分1秒の大切さです。中学生の子とはちょっとしか話せなかったけど、話せた時はものすごくうれしかったし、子どもミーティングに来てみて良かったと思いました。

そして、八王子の「食と農業」についてもいろいろと学ぶことが出来れば良いなあと思います。まだまだわからないこともたくさんあるけど、本番までにはちゃんとわかって入れるようにがんばりたいです。

.....
小学6年 坂本 あすかさん「初めて出会った友達」

私は初めて子どもミーティングに参加したので、わからないことがたくさんありました。でもサポーターさんがやさしく教えてくれてとってもよかったです！あと、知らない子と仲良くなれたりしたのも良かったです。一番最終にやった「夏休みと言えば？」という題でやったのも仲良くなるきっかけになりました。

これから約1ヶ月、みんなと仲良く楽しくやっていけたらいいなーと思います。今日はすごく楽しかったです。



メモメモ...



後ろのサポーターさんは意外とリラックス？

体験教室（7月29日）

体験教室では、恩方の中村農園、小宮の田中さんの畑、道の駅八王子滝山に行きました。この一日で、子どもたちと学生サポーターたちの距離がグッと近くなりました。

中村農園では実のつみ方や、おいしい見分け方など教わり、ブルーベリー狩りに挑戦しました。取った実はそのまま食べることができます。新鮮な甘ずっぱさがとてもおいしかったです。同じグループの子が、おうちの人にも分けてあげようと頑張って集めたブルーベリーを見せてくれました。その時の、とてもうれしそうな顔が印象的でした。また、ここでは中村さんの農業に対する熱い思いをしっかりと学びました。

次に、とうもろこし畑に行きました。最初のブルーベリー畑は恩方の山の中でしたが、こちらは家々の中に畑があります。こうした身近なところにも農業があったのだと、子どもたちは新たな発見をしたようです。とうもろこしを育てている田中さんは、子どもたちのお父さんと同じくらいの年か、それよりも年下のとても若い方です。若い人の農業ばなれが進んでいる中で、田中さんの話はこれからの農業を考える、いいきっかけになったように思います。もぎたてのとうもろこしは、近くの小宮小学校の家庭科室でゆでて食べました。野菜は新鮮が一番だ！！と言わんばかりに、みんなトトロのメイちゃんにまけないくらいほおばっていました。

最後は道の駅八王子滝山に行きました。東京では初めての道の駅です。地元の野菜や果物が、農家の方の顔写真とともに並んでいたりと、モニターを使って農作物を紹介していたりと、八王子産の農作物をアピールする様々な工夫がされていました。ここには中村さんや田中さんの畑でできたものも売られており、生産・流通・販売といった地産地消の流れを実際に感じ取ることができたようです。

子どもミーティングの本番では、いきいきとした多くの発言が出ましたが、それは、この体験教室で子どもたちが実際の農業に触れてたくさんのかんじ取ったからではないでしょうか。
（学生サポーター 橋本弘之）



ブルーベリー農園の中村さんのお話



とうもろこしを採らせてもらった田中さん

体験学習ということで、ドキドキのなか、市役所の駐車場に集合して、バスで出発進行。天候はあいにくの雨でしたが、バスの中は、雨を吹き飛ばすくらいに元気いっぱいでした。

はちおうじ子どもミーティング

まず、はじめに訪れたのは、恩方のブルーベリー農園です。農園の方の話に、子どもたちは真剣に耳を傾け、お話の内容を書きとめていました。そのあとは、いよいよ、ブルーベリー狩りの体験です。時間が少なかったものの、子どもたちは、一生懸命ブルーベリーを獲ってケースに満杯になっている子もいました。

続いては、小宮小学校に荷物を置いて、みんなでトウモロコシ畑に向かいました。そこで、農家の方のお話を聞き、収穫体験です。農家の方のお話によると、今年の夏は異常に暑く、雨も少なかったので、枯れてしまったとうもろこしが多いいということでした。その様子を直接体験した子どもたちも、様々感じたことがあるようです。

そして、いよいよ待ちに待った昼食です。小宮小に戻り、持ってきたお弁当を広げ、班ごとに昼食を食べました。班の中で、今まで話せなかったメンバーとも、食を共にして、仲良くなったようでした。また、食後には、収穫したてのとうもろこしを茹でて、おいしく頂きました。獲れたてのトウモロコシは本当に甘かったです。

最後は、体験学習の締めくくりに、道の駅に向かいました。この日見てきたような農作物は、どのように売られているのか、子どもたちも勉強になったようです。特に、売り物のバーコードをかざして、生産者の顔と名前が表示される機械には、みんな興味津々でした。

そして、濃い一日が終わり、無事に解散。子どもたちも、サポーターも盛りだくさんの体験に、疲れたようでしたが、みんなにとって、とても勉強になる一日となりました。

(学生サポーター 浜 えりか)



ブルーベリーを採りながら味見...



道の駅八王子滝山はピッとやると生産者がわかります。

学習会（8月5日）

労政会館で行われた事前学習会では、午前中に学習会を行い、午後にはワークショップを通して本番当日に言う意見や提案の作成を行いました。

午前中の学習会では、農林課の担当職員の方がデータを使用して「農業」について説明して頂き、教育委員会の学事課の方からは「学校給食」について教えて頂き給食が出来るまでや給食を通して行っている取組について聞きました。そして保健所の方からは食料自給率等のお話を交えて「食育」について詳しく聞きました。特に農林課の方には、体験教室の時に見学した道の駅八王子滝山について伺い、農家の方の表にでない努力を知った子どもたちはみんな驚いている様子でした。

三つのテーマだったため、長い時間に渡ってお話を聞いていたのですが、子どもたちは熱心に聞き入ってメモを取り、気になった点を質問しました。

午後は、発言したいテーマのグループに分かれてワークショップで意見をまとめる作業をしました。なかなか自分の考えが書けない子、話に入っていけない子、話の中でヒントを見つけてその場で案を思いつく子などいろいろな子どもがいました。そんなふう子どもたちは自分なりの参加の仕方を見つけ出していたように思います。そのような子どもたちの輪に交じり、学生サポーターは限られた時間の中で意見をまとめていました。意見がまとまると、他のグループを見てまわり、自分のところで出なかった意見を見ることができて、また参考になった様子でした。

その後それぞれが意見や提案を練りなおし、まとめの段階に入るととても集中して書いていました。当日の子どもミーティングが待ち遠しくなる学習会でした。

(学生サポーター 吉野弘敏)

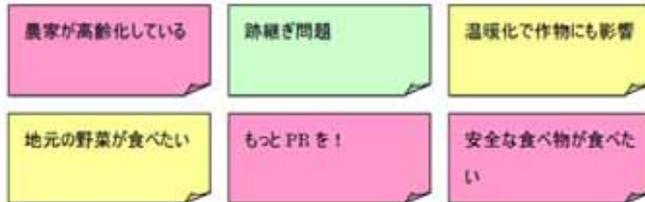
【ワークショップのすすめ方】

学習会のメインはワークショップです。あらかじめ宿題として自分の考えの整理と本番で話したいことを考えてもらい、それをもとにグループをつくりました。考えるプロセスの中で疑問に思ったことをすぐに誰かに聞けるという形は、短時間で行うワークショップにはとても効果的でした。

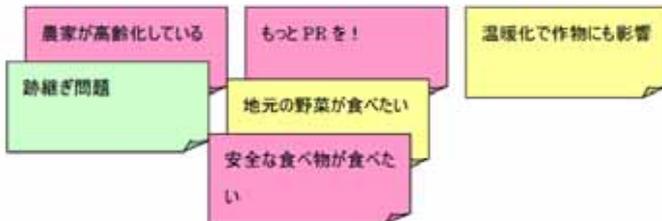
1 宿題を使って頭を整理。

ワークショップの進め方の例1 テーマ「農業」

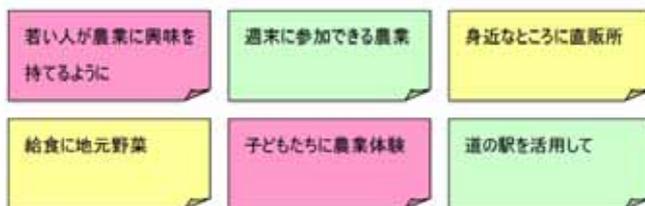
- ① 自分が考えてきた「宿題」の発表…提案したいことについて一言
- ② 「農業」の課題って何だろう?…思ったことを付箋に書いてみよう



- ③ 同じ仲間で集めよう



- ④ どうしたらいいかを考えよう

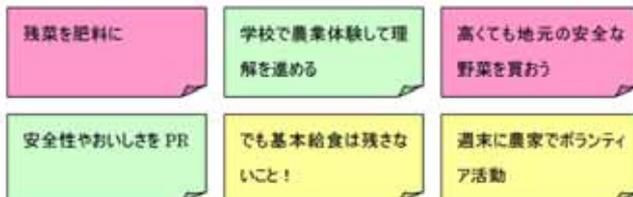


- ⑤ 同じ仲間で集めよう

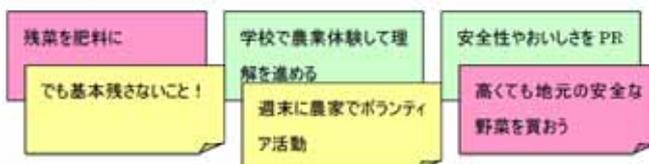


- ⑥ 自分達でできることは何?

ここが重要!



- ⑦ 同じ仲間で集めよう



2 グループをつくって話し合い開始。



3 付箋をつかって意見を張り出します。



4 張り替えながらみんなの意見を整理。



5 だいばまとまりました。

⑧ 子どもとして何から始めよう、何を提案しよう

こんなふうを考えたら…

- ・ 身近なところから始められる(家で、学校で、地域で)
- ・ みんなで取り組める(私が、家族が、地域の人が)
- ・ アピール性がある(「よし、やろう」と思える、「大切に」ということが伝わる)



それぞれにタイトルをつけてみよう

- 「農業ボランティア作戦」
 - 「給食に地元野菜を」
 - 「みんなで地元野菜をPRしよう」
- など。

4 意見・提案の作成(個人作業)

- ① 話した内容をまとめる。
- ② 各自ノートに自分の意見をまとめてみる。



宿題に続く



6 どのグループのマップも個性的です

子どもミーティング2010

皆さんに宿題です！パート3

学校学年 _____ 名前 _____

農業と食について市長にこんなことを言いたい！

皆さんは朝昼と今日の学習を終えて、いよいよ市長とお話することになります。自分は何を言いたいのか、きちんと整理してみましょう。

■私が話すジャンルは

① 農業 ② 給食 ③ 食育 (1つだけOをしてください)

■こんなことを話します。(具体的に書きましょう。半紙ではこれを隠していいです。)

※このシートは皆さんの当日の発表のものになります。内容によって子どものしあわせ課から事前にアドバイスがあるかも知れません。

今日の朝後に集めます(コピーしてみんなに送ります)。家でゆっくり考えたい人は、8月11日(水)朝で子どものしあわせ課まで郵便かFAXで送ってください。

【お届の送り先】
 八王子市子どものしあわせ課 子どもミーティング事務局 〒192-8501 八王子市元本郷町3-24-1
 でもね 042-600-7291/FAX 042-627-7776 E-mail 1052000@city.hachioji.kanagawa.jp
 ※書き方がわからなかったら事務局に聞いてください。



7 最後は自分の意見をまとめます。

子どもミーティング（8月22日）

いよいよ子どもミーティング当日です。僕は会場である加住小中学校に、緊張してか気合いが入りすぎてか、集合時間より一時間近くも早く着いてしまいました。

子どもたちはみんな元気に来るかな？と思いながら待っていると、少し緊張ぎみの様子。でも、学生サポーターたちと話をしたり簡単なゲームをしたりして、今度はちょっと気が緩みすぎではないかと心配するくらいみんなリラックスしていきました。子どもたちはどんなときでも元気いっぱいです。それでも、リハーサルが始まればいつのまにか真剣な顔つきに。一通りミーティングの流れを確認します。

そして、黒須市長と石川教育長が到着し、ついに待ちに待った本番を迎えました。子どもミーティングが始まると、初めて会った時はちょっと頼りないかな、と思った子どもたちも「マイクは使いたくない、自分の声で市長や教育長に発言したい！」と自信満々。その立派な姿は大人顔負けでした。他の市の市議会議員さんや保護者の方々など大勢の大人に囲まれながら緊張して声を詰まらせる場面もありました。しかし、事前学習会や体験学習会を通じて学び、自分が感じたことや考えたことをもとにして、一生懸命自分の意見や疑問を自分の言葉で大人たちに伝えます。そんな真剣な子どもたちの意見や疑問に対して黒須市長や石川教育長も真剣に受け答えをしてお互いの意見交換をしました。

終わってみれば「緊張したー。」「楽しかった。」など様々な感想でしたが、みんなとってもカッコ良かったです。たった数ヶ月前に初めてみたその姿からはとても想像もつかないような成長ぶりや、昨年から続けて参加している子の大きく立派になった姿には思わずサポーターたちも目頭が熱くなり、このミーティングのために準備してきた体験教室や事前学習会のことを思い出して、様々な思いが胸に迫ってきました。

最後まで驚きと感動をくれた子どもたちは様々な可能性を含んだ可能性の塊です。たくさんのことを教えてくれた子どもたちの元気さや頼もしさに負けないように僕も頑張ろう！と思いました。

（学生サポーター 齋藤良平）



はちおうじ子どもミーティング

+



2010. 8. 22



オリエンテーション

日程:平成 22 年 7 月 22 日(木)

場所:八王子労政会館 会議室

内容:仲間作り、八王子市の概要、テーマについて、ワークショップ体験

体験教室

日程:平成 22 年 7 月 29 日(木)

場所:恩方(ブルーベリー)、小宮(とうもろこし)、道の駅八王子滝山

協力:市内農家さん(中村さん、田中さん)、
道の駅八王子滝山、市立小宮小学校

内容:収穫体験と八王子の農業について
(体験とインタビュー)、施設見学



学習会

日程:平成 22 年 8 月 5 日(木)

場所:八王子労政会館 会議室

協力:産業振興部農林課、学校教育部学事課、八王子市保健所

内容:午前 農業と食について(担当所管課職員によるお話)

午後 ワークショップ「農業と食についてみんなで話そう」

子どもミーティング

日程:平成 22 年 8 月 22 日(日)

場所:八王子市立加住小中学校

協力:市立加住小中学校 宗像校長先生ほか
教職員の皆さん

内容:午前 リハーサル

午後 子どもミーティング



子どもたちの声

終了後、参加した子どもたちから感想をもらいました。
(感想文は基本的に書いてあるそのままの形で掲載しています。)

中学1年 佐々木 茜さん「八王子から、農業アピール!!」

今回はテーマを母から聞いた時から、とても楽しみにしていました。「農業」は、今私が一番興味のあるジャンルだったからです。

八王子に緑が多いことは大体わかっていました。しかし、私が住んでいる市街方面では畑を見かけないし、どのような作物が取れているのか知りませんでした。学校給食で八王子の野菜が使われているのは知っていましたが...

実際に農家を訪ねる体験学習で、実際の姿を見ることができました。八王子は「観光農業」としても農業をPRしています。しかし、私自八王子に住んでおきながらその実態を知りませんでした。

なので、私は市長さんに「週末お手伝い制度」と題した提案をしたのです。(週末に農業を手伝う観光農業で、農家に楽になってもらおうというもの。)東京の郊外にあると言われ、商業施設や高尾山といったものにしか注目されていなかった八王子から農業をアピールし、いつかは日本の自給率が上がりますように。

私にとって今回学んだことは、日本の自給率とその背景にある農家さんの大変な仕事。八王子から良いほうに変えることができ、良かったと思います。

小学6年 五十嵐 雅洋さん

子どもミーティングが終わって一ヶ月がたとうとしています。『農業と食』というテーマのもとに事前学習会で学び意見交換をし、農業体験では収穫作業や農家の方に直接インタビューすることができました。回を追うごとに友達も増え、みんなで意見発表会という目標に向かって考えを深め、まとめていきました。

当日は市長さん、教育長さん、大勢の来客の方を前に自分の原稿をもとに上手く説明し、発表できるか心配でしたが、市役所の皆さんやボランティアの大学生の方々がサポートして下さったので無事に発表を終えることができました。市長さんは、ぼくの発表を最後まで真剣に聞いてくださり、笑顔でほめてくれました。市長さんとのひとは夢のようでした。子どもミーティングは『農業と食』という大きな課題を柱に、自分たちの暮らしや人との交流、つながり、そして八王子市全体へと幅広く広げることのできる素晴らしい場であると思います。僕はこの貴重な経験を生かし、できる限りのことを積極的に行います。今回活動の一員として参加できたことを感謝しています。ありがとうございました。

小学6年 今山 和々子さん

私はこの夏、子どもミーティングに参加しました。

知らない子。知らないおとな。最初は少し不安だったけれど、すぐに打ち解けることができました。

「子どもミーティング」とは、テーマの『農業と食』について市長と話そう、というもの。もちろん市長と話す本番も楽しかったけれど、私は学習会とかも、とっても楽しかったです。

こういう行事に参加することはなかなかありません。本当にいい経験になったなあ、と思っています。来年もし忙しくなかったらまた参加してみたいです。

中学3年 岩崎 美紗さん「子どもミーティングに参加して」

私は、今年初めて子どもミーティングに参加しました。子どもミーティング自体知らなくて、今思うともっと早く知りたかったです。今回のテーマは、農業と食でした。農家さんのところに体験に行って、楽しかったし、農家さんから話を聞いたりできてとても勉強になりました。ほかの参加している人と話し合ったりして、いろいろな考え方があるんだなと思いました。当日、私は体調を崩してリハーサルには参加できませんでした。でも、近くに座っていた人やサポーターさんが教えてくれたので不安は余りありませんでした。

本番では資料の出すタイミングがわからなくて市長さんに見せられなかったり、緊張したけど、とてもいい経験ができました。

中学1年 小原 怜さん 「初めての夏体験」

私は今年初めて兄と母に誘われて子どもミーティングにチャレンジしました。その中でたくさんいい経験がありました。例えば、八王子に引っ越してきて2年目で市長さんや教育長さんと会えたこと。ブルーベリーやとうもろこしなどの食べ物がもらえたこと。面白くて優しい学生サポーターのお兄さんお姉さんに会えたこと。新しい友達ができたことなどです。

今回、いろいろな体験をさせてもらい、すごいなと思ったことが1つあります。それは八王子にもイノシシが出てくるということです。つまり八王子にはイノシシが隠れているだけの自然が少なくとも残っているということになります。私は八王子の地理の知識がまるでなかったので、八王子の地理の勉強になりました。

今では子どもミーティングがこの夏の思い出になっています。市の職員の方をはじめ協力してくださった方々、どうもありがとうございました。



中学 1 年 内野 優香さん

子どもミーティングに参加してよかったと思っています。

皆さんの考えを聞かせて頂いて、自分とは違う角度から物事を見たり考えていたり、普段から話す機会が少ない人やまったくもって初対面の人はとても新鮮でした。そして様々な方々と話したり、聞くことは自分の考えや世界が広がることを改めて感じました。

なので、特に何も無い平凡な夏休みにはいい刺激だったと思います。

ありがとうございました。

小学 6 年 角田 系帆さん 「参加してよかった！！」

私はこの子どもミーティングに参加してよかったなと思うことが2つあります。

1つ目はブルーベリーを収穫したことです。私は家に帰ってから食べようと思ったけど、待ちきれなくてバスの中でほとんど食べてしまいました。

とてもおいしかったです。

2つ目はほかの子と仲良くなれたことです。最初はあまりしゃべれなかったけど、一緒にお弁当を食べたり絵を描いたりして遊びました。いい思い出になってよかったなぁと思いました。

そして子どもミーティングが終わって2学期に入って、学校に行ったら仲が良かったサポーターの人がいました！！（事務局注：学校ボランティアでした。）

わたしにとって子どもミーティングとは、勉強の場でもあったけど楽しく話したり、お弁当を食べたりする場でもありました。子どもミーティングに参加してよかったです。

小学 5 年 岡松 めい子さん

私が子どもミーティングに参加した理由は、おばあちゃんの家が新潟にあったからです。新潟はお年寄りがいっぱいいて、田んぼや畑があったので、野菜やお米がどうやってできるのかずっと不思議に思っていました。なので、それを知るために子どもミーティングに参加しました。

私が子どもミーティングで一番思い出に残ったことは、とうもろこし畑でとうもろこしを取ったことです。その日最初ブルーベリー農園に行ってきました。そこではどんどんブルーベリーが取れました。でもとうもろこし畑は違いました。とうもろこしがあったと思って採ってみると水分がだめなのばかりです。私は何回も何回も採っては中身を見て捨てを繰り返しました。何度もやって8本目を取った時、やっと水分が足りているのがありました。私はそのとうもろこしを採った時とってもうれしかったです。そのことが私が子どもミーティングで一番思い出に残ったことです。

私が子どもミーティングで一番うれしかったことは、友達が増えたことです。私は子どもミーティング最初の日とても緊張して部屋の中に入りました。同じ学校の人は誰もいませんでした。でも、サポーターの人がとてもおもしろかったのですぐ緊張がとれました。そして二回目にはもう緊張なくなり、友達もできました。どんどん子どもミーティングをやり、子どもミーティング最後の日、私はとても悲しかったです。また子どもミーティングにいた人たちに会いたいです。だから子どもミーティングで一番うれしかったことは友達が増えたことです。

はちおうじ子どもミーティング

私は子どもミーティングに参加しているいろいろなことを学びました。また来年も子どもミーティングに参加したいです。

中学1年 根津 かすみさん「子どもミーティングに参加して」

今回の子どもミーティングでは、最初ちゃんと参加できるかどうか不安でしたが、体調も良くなり、参加することができたので良かったです。ご迷惑をかけた方々にもただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

八王子市について、八王子市で農業が盛んに行われていることをはじめて知りました。あまりやっているイメージではないのでびっくりです。八王子市に暮らしていてもまだ全然八王子のことを知らないの、これからもっと八王子のことを知っていきたいです。その上でこの子どもミーティングに参加できて良かったなと思います。

小学5年 井上 泰嗣さん

子どもミーティングに参加して、農業と食のことがいろいろわかりました。学生サポーターもやさしくしてくれたし、とうもろこし狩りやブルーベリー狩りは田中さんや中村さん(事務局注:体験教室でお世話になった農家の方)にいろいろなことを教えてもらいました。田中さんには、野菜は雨が降らないと育たないのと、逆に雨が降りすぎても育たないことです。(だから今年は)とうもろこしの枝に1本しかちゃんとしたとうもろこしができないことを教えてもらいました。中村さんには食のことで食料自給率のことを教えてもらいました。水やりや雑草取りなど農業という仕事は大変だと思います。田中さんはよく一人で農業をできるなと思いました。農家の人が心をこめてつくった野菜を感謝の気持ちを込めて残さずに食べたいと思いました。

教えてもらったことを生活の中でいかしていきたいです。

中学1年 塩沢 小晴さん「子どもミーティングに参加して」

初めて参加した子どもミーティングでしたが、楽しく課題について考えることができました。体験学習ではブルーベリーやとうもろこしを実際に収穫しました。私たちが体験したのは“収穫”の段階でしたが、農家さんはこの収穫に至るまでの作業を、一つひとつ丁寧にこなしているんだな、と感心しました。

また、本番の発表では、自分の意見をきちんと発表でき、とてもよかったと思います。今回このように楽しく課題について考えることができたのも、担当の市の方をはじめ、学生サポーターさんや参加メンバーの皆さんのおかげです。ありがとうございました！

また来年、できたら参加しようと思っています。

それでは、またいつか会う日まで！！

中学1年 山中 美幸さん

今回の子どもミーティングに参加して、農家の方がいなければ食べていけないのは知っていたけれど、農業がこんなに大変だとは思わなかった。毎年同じように作っても、毎年上手くいかない。今年は異常気象でさらに毎年のように上手くいなくなってきたと思う。

天候に負けずにがんばっていただきたい。

これを期に、農業についてもっと知りたいと思う。

中学1年 廣瀬 桃香さん「子どもミーティングに参加して」

私は子どもミーティングに参加してみて、八王子は農業に積極的に取り組んでいるんだなと思いました。でも、積極的に取り組んでいるのに、市内のスーパー等ではあまり見かけません。これはとても悲しいことです。市ががんばって農業に取り組んでもみんなに知らなければだめだと思います。

なので、道の駅のような施設をもっと増やせばいいと思いました。なので、これからも子どもミーティングに参加した人がほかの人に話をしていければいいと思いました。

次の子どもミーティングがあったら、また参加して、いろいろなことを学びたいと思いました。

小学5年 中川 貴就さん

ぼくは、はちおうじ子どもミーティングに参加して、印象に残ったことは、八王子市の農業生産量は東京都全体の約1割を占めているということです。自分が住んでいる市が東京都の中で重要な役割を果たしているところだったなんて思ってもみませんでした。しかし、八王子市の農家の数が減っているといった問題もあります。ぼくは八王子市の農家をもっともっと支援していくべきだと思いました。それは、農家の数が減るといことは、八王子市の農業生産量が減り、ただでさえ国の農業生産量のうち約1パーセントしか生産していない都の農業生産量が減ることにつながるからです。

この問題を解決するには、ぼくたちもなるべく八王子市や東京都で生産された食材を買うように心がけることも必要だと思いました。ぼくたちの心がけで少しでも都の自給率、いや国の自給率が上がればいいと思いました。だから皆さんにも心がけてほしいと思います。

この子どもミーティングで、いろいろな人たちと交流できました。参加者の人たちやサポーターの人とも仲良くできたことがうれしかったです。ミーティングでは八王子の農業についていろいろわかり勉強になりました。とても楽しかったです。



中学2年 安田 瞳さん

今回の子どもミーティングで、私は農業の大切さや偉大さを知った。

普段スーパーでよく見る食品の陰に、たくさんの人々の努力と苦労があることを知った。

だが、そんな農業が今、衰頹の危機にさらされていることも感じさせられた。

食というものは生物の本質。それに関わっていくことは素晴らしいことだと思う。

様々な体験をして、私は感動を味わった。この感動をたくさんの人に伝えていくことで、大変な努力を通して食卓に上がる食べ物に感謝の気持ちを持つ人がもっと増えれば食は救われると思う。

中学2年 日高 萌さん

私は、今回の子どもミーティングでたくさんのことを経験し、学びました。作物を収穫したり、今の日本全体や八王子市についての農業や食についてのことなどです。そして、班でいろいろ話し合っって意見をいい、考えることはとても楽しかったです。

本番では市長さんと話をして、なかなか感心するような意見をたくさん聞きました。私が一番驚いたのは安田さんの意見でした。市長さんを前にズバズバと自分の意見を言っていて、遠慮がなく、これもすごい、と感じました。子どもたちの意見はユニークなものも多く聞いていてもとても楽しめたと思います。そしてこの夏休みで私たちが学んだことを土台にして考えたこれらの意見が、今の八王子の役に少しでもたてたらいいな、と思います。本当に充実した、楽しい夏休みを過ごせたと思いました。

今回話した内容を忘れずに八王子のことを考えていきたいです。

小学6年 荒木 恵さん 「子どもミーティングに参加してみて！」

私はこの子どもミーティングに参加して本当に良かったと思います。この子どもミーティングは「食」がテーマで、最初はどうやって学んでいったらいいのかははっきり言って不安でしたが、テレビを見て道の駅のことを知ったり、今農家をやっている人はどのくらいいるのかを知りました。体験教室ではブルーベリーを摘んだり、実際に農業をやっている人のお話を聞いたりしました。

最後の市長さんのお話では、今までの子どもミーティングを通して学んだことを生かして、これからの「食」をこうしてほしい、こうなったらいい、ということをつたえました。こういった私たちの意見を発表することができて良かったです。もし子どもミーティングに参加していなければこのような貴重な体験はできなかったと思います。来年も参加できればまたやってみたいと思います。



中学2年 森戸 美唯さん

今回、子どもミーティングに参加して、たくさんのことを学ばせていただきました。特に農業については勉強になりました。

そもそも私がこの子どもミーティングに参加したのは、毎週総合の時間に農業実習をやっているひよ中の代表として行ってきて欲しい、と副校長先生に言われたからでした。だからこそ、農業についてしっかりと勉強しようとのぞみました。八王子の農業について、八王子にもたくさんの特産物があること、道の駅について・・・特に道の駅は、私の家からも遠くないので、今度行ってみようと思っています。

このように八王子市のことについて知ることができて良い体験をさせていただいたな、と思っています。貴重な体験をありがとうございました。

中学1年 平野 利希丸さん

はちおうじ子どもミーティングは、今年も僕の夏を飾ってくれた。

7月22日、労政会館に着くと、そこには去年お世話になった懐かしい顔がたくさん並んでいて笑顔で迎えてもらった。

去年は去年なりに自分の意見をよく言えたが、今年のテーマは『農業と食』だったので、その幅の広さに少し戸惑った。自分は農家数の減少とか高齢化しか興味がなかったが、体験教室や事前学習会を通して農業と食を見極めるにはいろいろな視点から見ていく必要があると思った。結果的には私は農家数の減少と高齢化を解決するために農業体験を広めていく方向で提案を書いた。

ミーティングの2週間前に左足にトラブルが出て外出もままならず、市の職員の皆さんにもご心配をおかけし、提言の原稿提出も数日遅れる始末だった。前日には心配した市の人からお電話をいただきうれしかった。当日はしっかりとした言葉で黒須市長に提案することができてとてもよかった。

このミーティングに参加して、やっぱり八王子はいいまち、私にとってはふるさとだと改めて感じた。

最初から最後まで自分を支えてくださったスタッフの皆さまに心から感謝いたします。

ありがとうございました。

中学3年 小原 実さん 「八王子の未来は明るい」

私は中学1年のときから子どもミーティングに参加してきました（事務局注：最初の年は子ども議会）。今年は夏期講習があるので参加を迷いましたが、母に「最後まで続けたほうがいい」と言われ、中学3年間を通してひとつのことをやり遂げたいと思い今年も参加しました。

今年の子どものミーティングのテーマの『農業と食』について、体験教室や学習会や参加者の発言を通して考えたのは、現在公立中学校で採用されている「スクールランチ」についてでした。

すべての活動で最年長として張り切ったり、発言の際緊張して言葉に詰まったことも、今では楽しい思い出です。それから、子どもミーティング同様の取組を、他の県や市でも開催したくて、しかも発表を見に来てくれていた人がいたと聞いてうれしかったです。

はちおうじ子どもミーティング

私は3年間の活動で、自己啓発の重要性を学びました。子どもたちの斬新な発想や提言を活用して今後の取組に活かしてもらえれば、10年後の八王子市はより住みやすくなっていると思います。

活動の場を与えてくださった子どものしあわせ課の方々、優しいサポートで支えてくださった大学生の皆さん、有意義な3年間をありがとうございました。



メディアに紹介されました！

八王子市長と児童ら「農業と食」意見交換(2010年8月23日 読売新聞より)

小中学生と市長が街づくりについて意見交換する「はちおうじ子どもミーティング」が22日、八王子市立加住小中学校(加住町)で開かれた。公募で集まった小学5年から中学3年までの22人が出席した。ミーティングは、身近な問題を通じて子どもたちに自分の住む街を考えてもらいたいと、市が昨年からはじめた。今回のテーマは「農業と食」。



子どもたちは、黒須隆一市長ら市幹部を前に、事前の学習会で学んだ市の農業の現状などをもとに、「給食にもっと地元の野菜を使ってほしい」「市内で農業体験ができる場所がほしい」といった意見を発表した。

市立散田小5年の中川貴就(たかなり)君(10)は「ほかの人の話を聞いて、もっと地元のを食べるようにしたいと思った」と話した。

黒須市長は「農業の活性化は日本の大きな課題でもある。子どもたちが広く関心を持ってくれたことはうれしい」と喜んでいて。

“振り返りの時間”から(学生サポーター感想文)

学生サポーターは活動に参加すると必ず各自が“振り返りの時間”を作成しました。

その日の活動を通じて、感じたこと、わかったこと、もっと知りたいことを私たち(担当者)に教えてもらうことで、お互いに次に何が必要かを考えることができました。こうして書くことで、サポーターは心の中でもういちど「振り返る」こととなります。「そうそう」「ちょっと待てよ」…だから「振り返りの時間」です。私たちとサポーターとの大切なコミュニケーションでした。

これはその最後のものからサポーター自身がみんなで選んだ6人の想いです。

テーマは「学生サポーターを振り返って」…

大学1年 粕谷 幸代

私が学生サポーターに興味を持ったのは、広報の学生サポーターの募集の気所を見つけたことが始まりでした。今までに子どもミーティングのような活動に関わったことがなかったので、楽しみという気持ちと消極的な性格の私が学生サポーターとしてやっていけるかという不安がありましたが、この活動に参加することによって学べることもあると思い応募しました。

研修会では子どもの安全確保やワークショップでの進行役や援助役のファシリテーターについて学びました。スタートアップ研修でワークショップをやったときに、ファシリテーター役を見事にこなしている学生サポーターの方々がとても印象的で憧れました。普段あまり学ぶ機会がない内容を学ぶことができ、私にとってとても有意義な研修でした。

私は子どもと接したことが少なかったので、子どもたちと直接関わる学習会と子どもミーティングの日は緊張と不安でいっぱいでした。でも、話しかけたら子どもたちは笑顔で明るく返事をしてくれ、温かく迎えてくれホッとしたことを覚えています。私の拙い言葉にも真剣に向き合ってもらえたことがうれしかったのと同時に、私自身もっとしっかりしなければいけないと思い、とても刺激になりました。

優しく適切な対応をとってくれる学生サポーターの方々、明るく真剣に子どもミーティングに取り組んでいる子どもたち、がんばっている職員の方々、当日暖かく見守っていた傍聴者の方々の姿を近くで見ることができ、とても勉強になりました。学生サポーターの一人としてこの半年間で貴重な体験ができました。

高専4年 吉野弘敏

私が、学生サポーターとして活動しようと思った動機は、市報を見ていて10年間住んできました八王子で何か人の為に役立つ働きをしたいなと思ったからです。そして、子どもとの触れ合いを通して今からでも学べる事があるだろうと思ったからでした。

初めての研修に行くときまわりは教員志望の方が多く、場違いな所にきてしまったなと思いましたが、市の職員の方に「子どもに何かを教えて欲しいわけではなくお世話をしてもらいたいでもない。子どもの横に寄り添う伴走者になって欲しい」という言葉を聞き、とても気が楽になりその後も気負いなく活動する事が出来ました。

学校の専攻は全く関係がないので、研修で話される事全てが新鮮で、中には自分が考えていた事を180度覆される事もありました。その研修を何回も重ね初めて子どもと触れ合った時は、周りの先輩方についていくのがやっとで子どもと触れ合う事は難しい事だなと痛感しました。しかし、回数を重ねると、勿論考えさせられる事はあり

はちおうじ子どもミーティング

ましたが、次第に子どもたちと触れ合う事に楽しみを覚えるようになってきました。又、先輩サポーターのより良くする努力を見て、自分も頑張ろうととも影響を受けました。

活動している中でとても印象に残った一コマがありました。事前学習会の最終段階である意見のとりまとめを子どもたちが行っている中、一人だけワークショップで使った模造紙をみながらメモを取っている子どもがいました。その子のお話を聞くと、「この紙を見ていると自分の考えていた事が全部じゃないってことがわかったよ。これを参考にして意見を書こうと思うんだ。」と言ってくれ、私自身とても感動し、ワークショップをやったよかったですと思いました。その子が、子どもミーティング本番でしっかりと発言している姿を見た時には、言葉に表せない程嬉しくなりました。

学生サポーターに携わって貴重な体験ばかりさせて頂き、本当に活動出来てよかったと市の職員の方をはじめ、学生サポーターの方々に感謝しています。私は、現在進路を決定しなければいけない時期なのですが、学生サポーターをさせて頂いたお陰様で自分自身の夢をある程度、明確にする事が出来ました。これからも学生の間は、学生サポーターをさせて頂きたいと思います。



大学2年 稲葉麻衣子

私は昨年から八王子学生サポーターの仲間に入れて頂き今年は2年目でした。児童に関係する職業に就きたいので、初めは子どもと関わる機会を持つことを目的に学生サポーターに応募しました。しかし八王子学生サポーターを続けていく中で、ただのスタッフ、ただの子どもの遊び相手として集められているわけではないんだなぁと毎回感じます。学生サポーターは参加者(子どもたち)が学習会で学んだことをもとに、こどもミーティングで市長や教育長にしっかり意見を言えることをサポートしていく重要な役割です。そのための能力が学生サポーターには必要とされます。例えばどんな能力かという、子どもが考えに行き詰っている時に、先に進めるようなちょっとしたヒントを出せるとか、グループワークでなかなか発言できない子は必ずいるので、そのような子に気付いて、その子の横に行ってどんなことを考えているのか個別に聞いてみるとかです。研修でこのようなことを学びました。

私は今年残念ながら、農業体験と本番のこどもミーティングの2回しか参加者の活動に参加できませんでした。ですが昨年からは学生サポーターになり、確実に将来のための勉強と成長に繋がっていることが自ら実感できます。反省会では、ほぼ毎回一人ずつ順番に感想や意見を発言するのですが、私は人前で話すのがとても苦手で、昨年は全くと言っていいほど喋れませんでした。でもこのように人前で話すことを強いられて、子どものしあわせ課の職員の方がいろいろなアドバイスを下さったり、応援して下さいたりして、今年は昨年よりは長めに話せるようになったと思います。昨年は、一言か二言話して「よし頑張った！」と声を掛けて頂いていたレベルだったので…。実際今年は職員の方も「話せるようになったね～」とおっしゃってくれ、とても嬉しいです。

話は変わりますが、こどもミーティング後の学生サポーターの集まりで、特に心に残っていることがあります。サポーターのある人が「私は一部の子ばかりを見ていた。もっと全体を見ていけると良かった。」という感想を言いました。それに対して「子どもと同じように、サポーターにもそれぞれ個性がある。その個性を生かして、全体を見ていく人、個別に見ていく人と役割があって良いと思う。なにも学生サポーター全員が全体を見られる人でなくてもいいんじ

ゃないかな。」という発言がありました。このやり取りに大変感銘を受けました。私は全体を見ることや、全体に呼びかけることができないことに悩んでおり、この言葉がすごく励みになったからです。この話を聞いて、私にはどんな個性があって、このメンバー(学生サポーター)の中でどんな役割を果たせるのかな、と考えるきっかけになりました。他にもサポーターの皆さんは、本当にいつも様々なことを感じながら活動されていて、意見を聞いているととても刺激になります。

こうして私は学生サポーターに取り組んだことで、「子どもと遊ぶのが楽しい！」ではなく、大人としての子どもとの関わり方を学び、経験させて頂きました。また少しずつ自分の考えを発表できるように進歩できたことや、他大学の人たちと交流し、考えを聞いて、「そういう視点もあるのか」と知り、視野を広げることができたことで、大変貴重な勉強の機会になりました。あまり子どもたちの活動に参加できなかったにも関わらず、充実した研修や学生サポーターの方々によって本当に沢山のことを学ばせて頂きました。最後になりましたが、子どものしあわせ課の皆さんいつもありがとうございます。

大学4年 橋本弘之

私はこの学生サポーターの存在を市の広報で知りました。それは就職のことを意識し始めた、3年生の夏休み前のことです。それまで読むこともなかった「広報はちおうじ」をなんとなく眺めていたところ、学生サポーター募集の小さな記事が偶然目にとまりました。普段子どもと関わることなく、将来そうした仕事に就く予定もありませんでしたが、「行政の仕事を体験できるのではないか」という思いから、募集に応募しました。なぜなら、将来の選択肢の一つとして公務員があったからです。そうでなければ経済学部生の私がこの取り組みに参加するインセンティブ(経済学でよく使う言葉で、日本語では「誘因」と訳します)は無かったように思います。

実際、学生サポーターには教員や保育士を目指している方が多く、みんな子どもとの関わり方も上手で、私は何度もへこたれそうになりました。それでも多くの人に支えられながら、気がつけば2年間も学生サポーターとして活動することができました。その間、普段の学生生活では経験できないようなことを多く学ぶ機会を得、それらは今の自分を支える重要な糧となっています。特に、2年目の「子どもミーティング」には個人的な思い入れも強く、自分なりに一生懸命取り組んだつもりです。また、今や八王子市を代表する取り組みとなった「子どもミーティング」に参加できたこと自体も、学生生活の大きな思い出です。例えば、普通に過ごしていたら市長や教育長に2度もお目にかかれませぬね。

先日、その「子どもミーティング」が広報に取り上げられていました。しかも、その様子は写真で表紙を堂々と飾り、特集ページまで組まれています。最初の応募のきっかけとなった小さな記事と、この特集の記事を改めて見比べて、ちょっと感動してしまいました。

学生サポーターになって、行政の仕事をわずかながらも垣間見ることができましたし、様々な個性を持った尊敬できるサポーターたちと知り合うこともできました。元気な子どもたちと一緒にすごせたのも、楽しい思い出です。また、「子どもミーティング」の後には、地元の市役所に就職することができました。学生サポーターを通して、私は多くのものを得ることができました。ミーティングに参加した子どもたちも、みんなたくさんものを吸収して、大きく成長できたように感じています。

最後に、私が感じた「学生サポーター」の良い点を簡単に述べて終わります。一つは、いろいろな視点を持った人が集まること。もう一つは、その学生の視点や思いをしっかりと吸い上げてくれる仕組みがあったこと。そして最後に、それを次回に活かそうとする気持ちが一人一人の中にあり、子どもたちのサポートにうまく還元していったことだと思います。今後も、この「子どもミーティング」がさらに発展していくことを願っています



大学4年 小林あす香

私が学生サポーターに参加したきっかけは、大学の先生からの紹介でした。「なんだか、面白いことをやっているぞ。楽しそうだなあ。私も仲間に入れてほしいなあ。」という思いから学生サポーターに応募しました。2年間の活動を一言で表すと、とにかく「楽しい！！」日々でした。

学生サポーターの集まりに行けば、かわいい子どもたちに会える、気のいい学生サポーターの仲間たちに会える、温かく見守って下さる市の職員の方々に会える…。私にとって、学生サポーターは大学とは異なる学びの場、もう一つの居場所でした。

私が学生サポーターに取り組んで、思ったことは2つあります。

1つ目は、「私自身の世界が広がったこと」です。学生サポーターの仲間は、それぞれが様々な分野を学んでいます。その人たちとの関わりは、私にとって自分の知らない世界を知るという意味で大きな刺激になりました。また、学生サポーターの活動を支えて下さった八王子の市役所の職員の方に、社会に出て働くことの大変さ、やりがい、喜びを教えてもらいました。学生サポーターの活動は、普通に大学生生活を送っているだけでは、絶対できない経験です。それを2年間も経験できたことは大きな財産だと思っています。

2つ目は、「自分自身の子どもの関わり方が変わったこと」です。私は大学で保育、幼児教育、初等教育を学んでいるので、実習やボランティアなどとおし、子どもとたくさん関わってきました。その中で、いつしか子どもの言葉を先読みし、代弁したりするようになっていました。

しかし、学生サポーターの活動を通し、「待つこと」ができるようになりました。学生サポーターは、子どもの伴走者です。一緒になって考えたり、相談にのることはあっても、子どもに考えを強制したり、子どもの意見を覆したりすることはしません。子どもが自分の考えにたどり着くまでのヒントや手助けを必要な時に必要な分だけ支援していくことが学生サポーターの役割です。あとは、ひたすらその子が動き出すのを待つだけ…。子どもと関わる中で、不安に思うこともたくさんありました。自分の考えに自信が持てず、「これでいい？」と聞いてくる子に対し、「大丈夫だよ。あなたの考えを知りたいんだよ。」と笑顔を見せる一方で、「本当にこれでいいのだろうか…。」という不安がいつもありました。私にとって、この「待つ」体験はとても新鮮で、自分自身の子どもの関わり方を顧みるきっかけになりました。

来年からは、私は小学校の先生として教壇に立ちます。立場柄、子どもに何かを教え込むことや指示を出すことが多くなると思います。しかし、学生サポーターで学んだ待つ姿勢を大切に、子どもたちと関わっていきたくです。私が八王子市のこどもミーティングに関わりはじめて約2年。この間、私自身にも様々な変化がありました。しかし、学生サポーターなしでは、今の私はなかったと思います。来年からは学生サポーターとしての活動はできなくなります。しかし、ここで学んでことや得たものを大事にして、これからもいろんなことに挑戦していきたいと思っています。学生サポーターとして活動できたこの2年間は、私にとって宝物です。どうもありがとうございました。

大学4年 大内未来

学生サポーターになって、今年で2年目。私の大学生生活の思い出の大半を学生サポーターが占めていると言ってもいいです。そのくらい、本気で取り組んできました。

私は、教員志望です。そのため、子どもを前にすると“先生”になろうとしてしまいます。でも、学生サポーターは決して“先生”ではありません。子どもにとって“頼りになるお兄さん・お姉さん”なのです。それに気づかせてくれたのは、学生サポーターの仲間でした。仲間の中には、同じ教員志望もいれば、法学部や経済学部など教育とは違うことを学んでいる人も多くいます。それぞれ違う考え方や教員とは違った子どもとの関わり方をしている仲間がいるから勉強になることもたくさんありました。“頼りになるお兄さん・お姉さん”になれたからこそ、短い期間の活動でも子どもとの距離感がぐっと近くなれたのだと思います。

私が、はちおうじ子どもミーティングのいい点だと思っているのは、学校から選ばれてきた子どもではなく、自分の意志で「やりたい！」と思ってきた子どもたちの集まりということです。勉強がちょっと苦手な子も、人前に出ることが苦手な子も様々います。しかし、自分の意志でやってみようという気持ちでやってくるのですから、勉強会の時の子どもたちの目は真剣そのもの。学校の授業時間より長いお話でも、最後まできちんと聞き、しっかり自分なりのノートを作ってまとめています。だからこそ、子どもの考えをより深めてあげたいという気持ちから、学生サポーターも一生懸命ファシリテートします。時に、子どもたちの無鉄砲な発言から学生サポーターの頭を悩ませることもありました。しかし、子どもとともに試行錯誤したことが、子どもにとっても学生サポーターにとっても大きく成長させてくれたのだと思います。

この2年間、私自身も参加した子どもとともに成長できたと思います。去年は、子どもの輪の中に入って、個に応じた対応をしてきました。今回は、“本部”として全体を客観的にみる役割になり、サポーターや子ども一人一人の特徴、それぞれのグループの特徴など分析しながら、サポートする立場を経験しました。このことによって、昨年以上に私自身の視野がとてつと広がり、とてつと勉強になりました。もし、来年も続けることができれば、反省を踏まえてもっと勉強できることがあるのではないかと欲が出てきてしまうくらいです。

体験学習でブルーベリーを山盛りに摘んで笑顔な子の顔、自分の番になって真剣に市長に提言する子どもの顔、疑問に思ったことを直接教育長に質問する子どもの顔、どれも忘れられません。今後、市の未来を担っていく子どもたちです。このような子どもたちの活躍できる場があると、市の活性化にもつながると思います。子どもミーティングがさらに発展してくれることを願っています。そして、数年後、子どもミーティングに参加した子どもたちが大学生になった時に、学生サポーターとして八王子市で活躍してくれる日を楽しみにしています。

最後になりましたが、このような素敵な機会に恵まれ、たくさんの方に出会いました。この活動で出会ったすべての方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



農林課からメッセージをいただきました

猛暑により成熟の早まったトマトたちがギッシリと店頭を埋め尽くした頃から、今年のはちおうじ子どもミーティングの取組みがはじまりました。

今回のテーマは「農業と食」。本市の施策として、また生活していく上で欠かすことのできない大事なテーマをどのような形で伝えていこうかと、あれこれ考えたことを覚えています。

農業を担当する所管として、学習会とは別に、五感に残る「体験」をしていただくことが、望ましいと考え市内の農家周りをする体験教室を企画しました。そこでは、摘み取ったブルーベリーの甘さ、重いかぼちゃの収穫の大変さ、また猛暑により生育の不十分だったとうもろこしを見て農業の難しさなど、農業を体感することで、今まで、あたりまえであった食に対する意識改革ができたと思っています。

子どもミーティング発表会の当日では、子どもたち自らが提案したテーマをしっかり見定め、その解決に向けて自分の意見や感想を述べる姿に感銘し、頼もしく感じました。

この貴重な体験は、これからの生活に必ず生きていくものと確信しています。

すべての意見や提案は、普段私たちが気がつきにくい、子どもの目線にたったものであり、どれも貴重なものばかりでした。また、市の施策や取り組みなどを、未来を担う子どもたちに伝える場として、大変有意義な時間を共有することができました。

農業を理解することは難しいことですが、たとえば「このトマト、おいしいね」「きれいな色だね」と何事にも興味を持つこと、感じることは大切なことです。また、これは農業振興においても小さいけれど、とても大事な「一歩」なのです。

本市では、第六次行財政改革大綱の行財政改革推進プログラムの中で、将来世代が安心して暮らせる「持続可能な地域社会」を築くことを目標として掲げています。そのために、私たちには「次代に健全な形で豊かな社会を引き継いでゆく」責務があります。

やがて大人になる子どもたちに、この八王子の素晴らしい環境を引き継げるよう、今回の意見、提案をしっかりと受け止めて、今後の農業振興行政に活かしてまいります。

『農業こそ万人にふさわしい、最大の独立性と幸福とを与える唯一の職業なのである。』
トルストイ



はちおうじ 子どもミーティング 資料



- 1 名簿
- 2 子どもたちの提案
- 3 学生サポーター（研修）
- 4 子どもの活動と参加



1 名簿

平成22年度子どもミーティング参加者

小学生 岡松 めい子
 中川 貴就
 井上 泰嗣
 五十嵐 雅洋
 今山 和々子
 荒木 恵
 菱山 優佳里
 岡本 栞
 坂本 あすか
 下岡 真奈
 角田 糸帆

中学生 廣瀬 桃香
 山中 美幸
 塩沢 小晴
 根津 かすみ
 小原 怜
 平野 利希丸
 佐々木 茜
 塩野 海斗
 内野 優香
 森戸 美唯
 安田 瞳
 日高 萌
 小原 実
 岩崎 美紗

学生サポーター

稲葉 麻衣子
 上野 夏美
 大内 未来
 緒方 友利奈
 小林 あす香
 小松 詩歩
 齊藤 良平
 佐藤 亜海
 田倉 尚朗
 橋本 弘之
 畑野 智子
 松田 ありさ
 八木下 理仁亜
 山口 友歌
 山田 愛里
 粕谷 幸代
 浜 えりか
 山崎 麻未
 酒巻 由佳
 吉野 弘敏
 河瀬 昌昭
 三好 孝昌
 安野 果歩
 上田 雅友美

2 子どもたちの提案

子どもミーティングは子どもたち一人ひとりが主役です。

発言は一人ずつ全員が行いました。

参加者は宿題や事前学習会を通じて、自分はどんな分野について発言したいかを何度も練り直して、それぞれのジャンルに分かれて質問や提案を行いました。

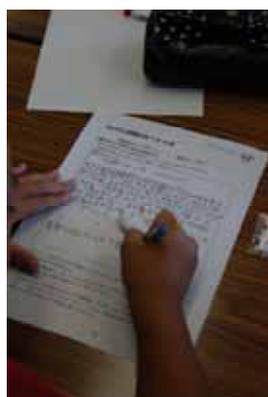
また、子どもたちの発言には、すべて市長と教育長が答えました。

分野	名前	学年	要旨	
農業	農業振興 (道の駅)	おかまつ 岡松 めい子	小 5年	道の駅に行ったら、生産者のことが分かる機械やスタンプがあって、すごいと思った。もっと大きくなったらいいと思う。
		なかがわ たか なり 中川 貴就	小 5年	日本の食糧自給率が低いので、農家さんのやる気が出るような対策を考えてほしい。道の駅のような直売所などをつくって、消費者も地元でとれた野菜を買えば自給率が上がると思う。
		いのうえ たいし 井上 泰嗣	小 5年	道の駅で野菜を買うと少し高いので、八王子産の野菜をスーパーで買うとポイントがたまり、野菜がもらえる「八産カード」を作ったらどうか。
	農業振興 (農地)	しおざわ こはる 塩沢 小晴	中 1年	一般の人は農地を買うことができないと聞いた。農家が高齢化している中で、手軽に農業を体験できるよう、一般人の農地購入を許可すればいいと思う。
		ねづ 根津 かすみ	中 1年	八王子は農業に適した土地であると聞いたが、どんな条件の土地が適していて、よりよくするためにはどんな工夫が必要なのか。
	農業振興 (農家)	いがらし まさひろ 五十嵐 雅洋	小 6年	八王子の農家さんが意欲的に仕事をしてもらえるような提案する。 農家のみなさんの収入の保障する 必要な肥料や機械を一部負担する 人材を確保する 後継者を支援する
	農業振興 (情報発信)	やすだ ひとみ 安田 瞳	中 2年	農業について市でやっていることを知らなかった。農業の課題は「市民に身近なものでない」と言うことなのでは？たくさんの人に知ってもらうことで活性化できると思う。
		ひしやま ゆかり 菱山 優佳里	小 6年	私の家では、直売所をやっている、新鮮でおいしく安く薬をあまり使っていない安心な野菜を作って売っている。「エコファーマー」をもっと多くの人に知ってほしい。
	農業体験制度	ひだか もえ 日高 萌	中 2年	子どもミーティングのように楽しく農業と触れ合える場所があるといい。総合学習の時間で農業をやるが、生徒の反応はよくないので、楽しく体験できる場所が必要だと思う。
		いわさき みさ 岩崎 美紗	中 3年	農家の高齢化は、若い人たちの農業に対するイメージが悪いからだと思う。農家さんを登録し、希望の農家に体験に行けて、農業のイメージアップを図れる「農業体験制度」を提案したい。

はちおうじ子どもミーティング

食		ささき あかね 佐々木 茜	中	1年	このままでは近い将来、農業をする人がいなくなってしまうのでは？自分たちの世代に農業に関心を持ってほしいので「週末農業お手伝い制度」を提案する。
		ひらの りきまる 平野 利希丸	中	1年	農地や作物の減少は農家の高齢化が原因。これから農業を盛んにするためには市民と農家の協力が必要だと思う。若い人が関心を持ち、農業を始める機会を持ってもらうには体験が必要。
	その他	しもおか まな 下岡 真奈	小	6年	農業では、季節の変わり目に植物が育たないと野菜の値段が高くなるのとは関係があるのか？野菜がおいしくできるのはすごいと思った。
		おかもと しおり 岡本 菜	小	6年	ブルーベリーを収穫してみて、あまいのとすっぱいのを見分けるのが大変だった。どういふうに見分けるのか？
	残菜のリサイクル	やまなか みゆき 山中 美幸	中	1年	給食の残飯がもったいなので、堆肥にして農家に配る。授業の一環で農家の手伝いもし、そこでできた有機野菜を給食で食べるのはどうか。
		ひろせ ももか 廣瀬 桃香	中	1年	給食の残飯がもったいなので、堆肥にして農家に配る。授業の一環で農家の手伝いもし、そこでできた有機野菜を給食で食べるのはどうか。
	中学校給食	おはら みゆる 小原 実	中	3年	中学校の給食が冷たいという意見が多かった。今の中学校に給食室をつくるのは難しいので、これから作る新しい中学校に作るのはどうだろうか？
		もりと みゆ 森戸 美唯	中	2年	中学校給食は「おかずが冷たい」ので頼む人が少ない。地産地消が給食の目的なら、学校に給食を温める設備があるといいと思う。
	牛乳	おはら れい 小原 怜	中	1年	給食の飲み物の量が少ないので、牛乳の量を増やしてほしい。量を選べるようにしたらどうだろうか？
		つのだ しほ 角田 糸帆	小	6年	私は牛乳が苦手。昔給食に出ていたというコーヒー味の粉末を牛乳にとかして飲む「ミルク」が給食にできれば、牛乳が苦手な子どももおいしく飲めると思う。
地産地消	あらかい けい 荒木 恵	小	6年	学校の給食に、安全でおいしいと思う地元の野菜や国産の肉を使って、給食の時間がもっと楽しいものになったらいいと思う。	
	いまやま ななこ 今山 和々子	小	6年	食料自給率を上げるために、学校給食に地元野菜を使ってほしい。	
	うちの ゆうか 内野 優香	中	1年	降水量の変化や獣害による被害により年によってできばえが異なるというが、作ることのできる給食のメニューは量や種類が制限されるのか？それとも影響はないのか？	
	さかもと あすか 坂本 あすか	小	6年	加住小中学校では、学校で育てた野菜を給食で使っているが、他の学校でも八王子で育てた野菜を給食に使うのはどうか？	

参加者の中には、ミーティング当日欠席のため、発言できなかった子もいました。



3 学生サポーター（研修）

私たち学生サポーターの役割は、子どもたち一人ひとりの意見を引き出し、それをミーティング本番でいかに堂々と述べてもらうか、というところにあると思います。2年目のサポーターが多い中、まだまだ学ぶところが沢山あった、というのが私の感想です。

サポーター研修は3回行われ、主にファシリテーターについて学びました。ファシリテーターというのは、ワークショップなどにおける進行役であり、参加者の中に起こるさまざまな場면을援助、促進する役割をもった人のことです。ワークショップで子どもたちが意見を出し合うためには、欠かせない存在です。

しかし、いざ自分がファシリテーターをやると、自分の意見を言わず、評価をせず、時間配分を考えながら、意見を待つというのはなかなか難しく、子どもの視点がわからない私たちにはなおさらでした。そうしたこともあり、実際に私たちが研修の中で八王子駅の周りを一時間ほど歩き、「!?」と思ったものを出し合うことで意見を出す子どもの視点を感じることができました。

思わず自分の意見で先導してしまうこともありましたが、そこはぐっところえ、最終的に全体の意見を形にできるよう、サポーター同士でもよく話し合っって本番に臨みました。

岩手県から講師で来てくださった山本先生の言葉にこのような言葉があります。

「指導者ではなく、援助者。先導者ではなく、伴走者。」

教師志望の私にとっては、とても興味深い言葉です。「こんなことしちゃだめでしょ」と頭ごなしに怒る先生から、「どうすればよかったと思う?」と問いかけることのできる先生に少しでもテップアップできたのではないかと思います。

（学生サポーター 山田 愛里）

学生サポーター研修

第1回 5月28日(金) 内容:“場”づくりとアイスブレイク、八王子市の子ども施策について学ぼう、

ワークショップ体験、学生サポーターってなんだろう?

第2回 6月22日(火) 内容:子どもと関わるときの安全の確保とかかるおとなの責任について、子どもの権利条約って?

第3回 7月 3日(土) 内容:特別研修「子ども参加を支援するオトナたちへ」

講師:山本 克彦氏(岩手県立大学准教授)



4 子どもの活動と参加

子どもの活動と参加

「元気なまち はちおうじ」を目指す本市が、「活力があるまち」「人がすみたいと思うまち」と考えた時、子どもという存在は不可欠ですが、子どもは八王子に住みたいと思っているのでしょうか？このまちに愛着があるのでしょうか？大人になった時またこのまちで暮らしたいのでしょうか？

市は「小さな市民」のためにどんな機会を与え、市民としての意識を育ててきているのでしょうか？

「**子どもの権利条約**」は、子ども自身が権利の主体であることを明確にし、おとなと同等に市民としての積極的な社会参加を行うことを保障するものです。ここでの重要な視点が第12条の「**子どもの意見表明権**」です。そこには「自己の意見をまとめる能力のある子どもに対して、その子どもに影響を与えるすべての事柄について、自由に自己の見解を表明する権利を保障し、かつ、子どもの意見は、その年齢および成熟度に従い、適正に重視されなければならない。」と記されています。これは、子ども自身が生活や生きることについて「**自己決定を行う権利**」です。

その点から**子ども議会**や**子どもミーティング**を単なるイベントとしてではなく、「**子ども参加**」の権利を保障するものであり、子どもの自立のプロセスに関わるものであるという考え方を、取組みに関わるすべてのおとなが理解している必要があります。

子どもに機会をつくっても、「子ども参加」がおとなによって意図的に仕組まれたものであっては意味がありません。子どもの活動はおとな側の仕掛けによって、“それらしく出来てしまうもの”であり、発言や結論を誘導することが可能だからです。実際、子どものかかわる活動には「**子どもの意見も聞きました**」的な参加とも受け取れる場面もまだまだあるように思えます。

子ども議会、**子どもミーティング**は、こうした課題に取り組んできた他市のすぐれた事例を参考にしたり、実際に活動を手がけた方にアドバイスしてもらいながら、おとなと子どもの間に入る「**学生サポーター**」を育成、彼らによる活動支援を行いました。研修では、子ども観や市の子ども施策と合わせて、子どもの活動支援はどうあるべきか、ということが議論されました。このことは、自分がどんな役割を持ち、どのように子どもの活動と向き合っていくのかを問うことでもあります。直接子どもと関わる以上、その対応がまちまちであったり、共通理解のないままに活動が進められることや、中には活動当日だけに参加するという人がいることには活動全体に大きなリスクがあるのです。

学生サポーターにも、いくつかの段階があります。たとえば活動当日だけに参加する「**いるだけ**」レベルは、活動の運営上も言われたとおりに行動するという形にならざるを得ません。何が子どもにとっていいことなのかを考えながらかかわる「**自分から進んで**」レベル、さらには子どもの自立のプロセスに寄り添う「**伴走者**」レベルにはサポーターとしての学習が不可欠です。この点において、彼らは事前に何度も研修を行い、活動の前に綿密な打ち合わせとサポーター同士の意見交換を行うことで、活動に参加する子どもたちの伴走者としての役目を果たしました。彼らの書いた「**振り返り**」を読んでいただければ、子どもを支えるという目的で集まっていながらも、その子どもたち

はちおうじ子どもミーティング

との出会いによって短期間で着実にサポーター自身が成長している、ということに気づいていただけたと思います。

このような継続的で丁寧な活動の上に成り立った学生サポーターと子どもたちの育んだ信頼関係に支えられて、今日の私たちの「子どもの参加」活動があるのです。

自分の住むまちについて「リアルに」知ること(どうなってるの?)、疑問に感じる事(どうしてそうなの?)、働きかけること(こうしたらいいと思う)に子どもが取り組むことは、「子どもも市民である」という行政の自覚であり、5年後 10 年後には確実に一人の大人となる次世代に対しての基礎自治体の責任でもあります。

市はこれらの取り組みの評価を踏まえ、子どもの目線を大切に、市民としての「子どもの参加」の活動に取り組んでいく必要があると考えます。

子どもの参加を支える学生サポーター

学生サポーターは子ども議会を支えた公募による大学生のグループです。子どもを支える援助者となって活躍してもらえよう、子どもとの関わり方や市政の知識、ワークショップでのファシリテーターの役割などの研修を積み、サポーターとしてのスキルを身につけてきました。知識やテクニックはもちろんですが、実際に活動に参加しながら「子どもにとって何が大切か」「私たちは何ができるのか」を感じとることのできる、頼もしいお兄さんお姉さんでした。彼らがいなければ子どもミーティングの実現は難しかったでしょう。



アドバイザーによる研修風景



学生たちのワークショップ体験

アドバイザー

平成 19 年度の子ども議会準備から 22 年度の子どもミーティングまで、サポーターの研修や子どもの活動のアドバイスをしていただいた事業アドバイザーです。



山本 克彦氏 (やまもとかつひこ)

岩手県立大学福祉臨床学科准教授

公立中学校教員、保育園副園長などを経て、生涯学習研究所 SOUP で滋賀県の子ども議会などを企画運営。現在は岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科准教授。主な専門分野は児童福祉、社会福祉援助技術演習、レクリエーション。

著書に「ワークショップ入門」、久美出版、2006 「福祉教育実践ハンドブック」(共著)、全国社会福祉協議会、2002 「子どもの参加-国際社会と日本の歩み-」(共著)、アジア太平洋人権情報センター、2005 「子どもとマスターする 50 の権利学習-イラスト版子どもの権利-」(共著)、合同出版、2006 ほか。

子どもミーティングに協力していただいた方々

体験教室

中村 貞夫さん（恩方町の農家さん。甘いブルーベリーを摘みました。）

田中 淳一さん（石川町の若き農家さん。おいしいとうもろこしを収穫しました。）

市立小宮小学校 片岡 祥二 校長先生
園田 友規 副校長先生
教職員の皆様



道の駅八王子滝山の皆様

産業振興部 農林課

学習会(所管課ヒヤリング)

産業振興部 農林課

学校教育部 学事課

健康福祉部 生活衛生課（保健所）



子どもミーティング

市長 黒須 隆一

教育長 石川 和昭

健康福祉部保健担当部長 早川 和男

こども家庭部長 菊谷 文男

産業振興部長 小林 隆宣

学校教育部長 坂倉 仁



市立加住小中学校 宗像 武彦 校長先生
那須 郁夫 副校長先生
山下 博一 副校長先生
上島 尚久 副校長先生
教職員の皆様



写真提供

広聴広報室 広報担当





平成22年度
はちおうじ子どもミーティングの記録

発行 八王子市

平成22年12月

編集 こども家庭部子どものしあわせ課

〒192-8501

東京都八王子市元本郷町三丁目24-1

042-620-7391(直)

E-mail b082600@city.hachioji.tokyo.jp